

そのおせっかいがボクらを救う!

ずっと一人で外にいる子や、いつも大きな声で子を怒ってばかりいる親など…。町なかで見かける光景は、虐待を受ける子どもやその保護者からのSOSかもしれません。余計なおせっかいかしら、なんて気にする前に、親子を守るために私たちができることを考えてみませんか?



11月は児童虐待防止月間! オレンジリボンは「こども虐待防止」のシンボルです



「子どもへの虐待」ってどんなこと?

→しつけか虐待かは「**子どもの立場**」から判断します

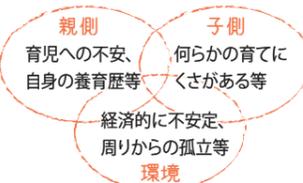
虐待かどうかは、虐待をする側である保護者(親など)の意図とは無関係です。「しつけのため」「子どものため」と思っている、子どもが傷ついていれば虐待と判断されます。

虐待の種類	
身体的虐待 殴る・蹴る、激しく揺さぶる、戸外に閉め出す、やけどさせる等	心理的虐待 言葉で脅す、無視する、子どもの前で暴力などを振るう、兄弟間で差別する等
性的虐待 子どもにわいせつな行為をする・させる、ポルノの被写体にする等	ネグレクト 食事を与えない、不潔にする、登校させない、同居人の虐待を放置する等

なぜ虐待してしまうの?

→理由は**さまざま**で複雑。子育てを頑張りすぎている可能性も

さまざまな要因が重なったとき、家族の心理状態が不安定になり、虐待が引き起こされます。「親が悪い」と一方的に判断するのは危険です。



どうせ他人事でしょ?

→27年度の区内対応件数は**約400件!** ご近所でおきています。市全体の対応件数5,470件の内、約400件が区内で発生しています。自治会・町内会単位だと、1町会で平均3件にも。他人事と考えるのではなく、身近な問題として周囲に気を配りましょう。



虐待が疑われる子どもを連れた親が居所を転々と変える事例が多く発生しています。その場合は、より素早い対応が求められます。そんな時、皆さんの連絡が救いの一手となります。「虐待かな?」と思ったら、迷わずにご連絡ください。

横浜市こども虐待防止キャラクター「キッピー」

確信がなくてもすぐに連絡を

虐待がおきてしまったら、つらい思いをしている子どもと親をできる限り早く発見し、支援することが重要です。確信がなくても、心配なことがあれば区役所等にご相談ください。

発見・連絡のポイント

- | | | | |
|--------|--|------|--|
| 子どもの様子 | <input type="checkbox"/> いつも泣き声や親がどなっている声が聞こえる
<input type="checkbox"/> 原因がはっきりしないけがをしている
<input type="checkbox"/> 家に帰りがたらない
<input type="checkbox"/> いつもお腹をすかせている
<input type="checkbox"/> いつも不潔である
<input type="checkbox"/> 表情が乏しく元気がない | 親の様子 | <input type="checkbox"/> 子どもへの態度が過度に厳しい
<input type="checkbox"/> 地域や親族との交流が無く孤立している
<input type="checkbox"/> 子どもを家に置いたまま出掛けている
<input type="checkbox"/> 子どものけがに不自然な説明をする
<input type="checkbox"/> 育児に対する知識に偏りがある |
|--------|--|------|--|

連絡はこちら

秘密厳守・匿名可

相談者に迷惑がかからないように対応します。

区役所こども家庭支援担当 (3階4番窓口)

☎ 510-1850 fax 510-1887

横浜市中心児童相談所

☎ 260-6510 fax 262-4155

よこはま子ども虐待ホットライン

はまっこ 24じかん ☎ 0120-805-240 (24時間365日)

最終目標は**自宅**で安心して暮らすこと!

連絡後、区役所等は親子を引き離すのではなく、親子が安心して生活できるよう家庭環境を整える手助けをします。実際、区役所や児童相談所が支援している子どもの約8割は自宅です。

連絡を受けたら…



ご近所の声かけが虐待を防ぐ!!

孤立した環境での子育てが、虐待の大きな要因の一つになっています。昔ながらの大家族や地域ぐるみでの子育てが無くなりつつある今、悩みがあっても一人で抱えて、つい子どもにあたってしまふ親もいるのです。そんな時、周りのちょっとした気づかいや、会話、笑顔が親の

気持ちを軽くしたりほっとさせたりすることもあります。おせっかいと思われようと、ささいなことでも声かけし、子どもを気づけたり、子育てを後押しする、そんな地域の輪を広げませんか? 安心できない今の時代だからこそ、家族同士であいさつし合える関係を築くことが、子どもの成長の見守りにつながります。

声かけのポイント

ささやかでOK

笑顔で

思いやりの言葉

育児への理解を示す

あたたかなまなざしで



内容はささやかでOK



困っている時こそあたたかく



家族同士の知り合いづくりが大切

声かけで、子どもの成長の喜びを感じることも。皆さんも、始めてみませんか?

主任児童委員として、子ども子育て世帯を20年以上にわたって支援しています。子育ても大きく変わり、昔は祖父母に聞いていたことも、今はスマートフォンで調べる時代。そんな中、関係づくりに有効なのが「声かけ」です。「声かけて何をすればいいの?」と思う人もいますが、町なかで泣いている子どもと取り乱している親を見かけたら、子どもだけではなく、親にも「大丈夫?」と話しかけるなど、小さなことで十分です。昔の祖父母の役割を、近所の人がちよっとだけ肩代わりすることで、親の心にも余裕ができるんです。声かけを続けると、顔見知りになった親子が元気にあいさつをしてくれることがあります。そんな時は、まるで子どもや孫が増えたようなうれしさを感じ、成長の喜びを分かち合えます。ぜひ皆さんも、声かけを始めてみませんか?

主任児童委員って?

地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ことなどの相談・支援等を行っています。



鶴見区主任児童委員連絡会代表 上野野 麗子さん

問 区役所こども家庭支援担当 ☎ 510-1850 fax 510-1887